
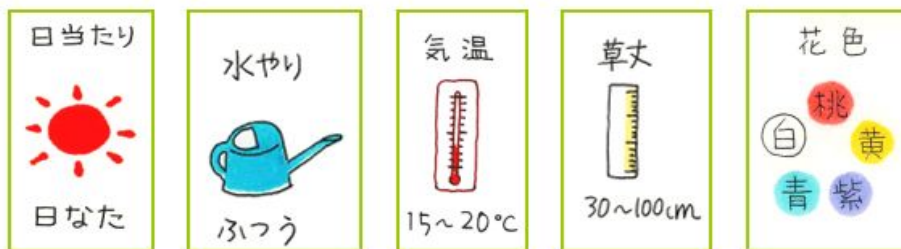


お花の栽培シリーズ「クロッカス」

2010年2月	如月(きさらぎ)・令月(れいげつ)・梅月(むめづき)・梅見月(むめみづき)・初花月(はつはなつき)・雪消月(ゆききえつき)・仲月(ちゅうしゅん)	●春に向けての準備期間
立春がすぎると気候にも変化が始まり、自然界には「春」がやってきます。凍っていた地面がゆるんで、土がやわらかくなるこの時期には、本格的な春に向けての準備をしましょう。		
庭木の作業	・凍っていた地面がゆるむと、穴を掘り元肥を入れて準備する。冬囲いをとる。バラやフジなどの花木では、整枝剪定の時期です。	
草花の作業	・1月に掘り起こした土に堆肥や有機配合肥料を全面にまきましょう。	

今月の誕生花	ウメ・サクラソウ・スノードロップ・フクジュソウ	
今月の花	クロッカス 花言葉/青春の喜び、じれったい、あなたを待っています	
	秋咲きのクロッカスの一種サティバスは、その濃紅色の雄しべを集めて染料や料理に使用しますが、春咲きの種は利用価値がなく、観賞用です。秋咲きの花柱の乾燥粉をサフランと呼ぶので、秋咲きのサティバス自体をサフランと呼ぶこともあります。ギリシャ神話では、クロッカスは羊飼いの娘スミラックスに恋する美青年。二人は愛し合っていました。しかし神々に反対されて結婚できず、絶望した青年は自殺してしまいます。一人残された娘も、悲嘆にくれて泣き暮らすことに。『じれったい』という花言葉は、春が待ちきれない土の中のクロッカスの球根がつぶやいている気持ちそのまま。なかなかプロポーズしてくれない恋人に、こんな花を贈ってみては??	
	原産地はヨーロッパ～北アメリカ。アヤメ科サフラン属の球根植物。草丈は10～20cm。開花時期は2～3月。最盛期は3月。葉の形状は、幅0.8cmくらいで中脈が白い。花色は、黄色、紫、白。英名クロッカス(Crocus)。別名ハナサフラン。学名Crocus spp.	
	球根はいつ植えてもいいのですが、花壇や水栽培用には秋に植えるようにしてください。聖バレンタインの日(2月14日)のころに咲くので、聖バレンタインにささげる花ともいわれます。	



多年草ですが、冷涼の気候を好むために、夏越しはやや難しく、関東地方以西の暖かいところでは、一年草として、毎年種まきをすることをお勧めします。反面、冷涼な地方で栽培すると夏に見事な大株に育ってくれるものです。秋まきとして春に定植します。冬越しは、フレームの中など霜よけのできる場所でおこないます。鮮やかな青色が夏に涼しさを呼ぶことから、人気の高まっている植物です。切り花としてフラワーアレンジメントの素材としてさまざまに用いられますし、矮性種は花壇植えによく、またコンテナ栽培にも最適です。草丈も、30cmから1mになるものまでいろいろあります。同色をもとめて花壇に植え込むと圧巻です。また、同系統の色を何種類か並べて色のグラデーションを楽しむのも良いでしょう。



●種まきからの育て方



●年間スケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生育状況	花期 											
置き場 植え場所	日当たりのよい屋外  育苗中はフレームなどのなかで!!											
水やり	表土が乾いたら与える 											
肥料	元肥 											
病虫害												
作業	定植  種まき 											